

## 1-4 基礎杭打工

### (1) 鋼管杭打込状況



#### 留意事項

- 打込み機などの主要な機械の設置状況と周囲の状況が確認できる。
- 黒板を入れて撮影する。

#### 撮影方法

- 主要機械の特徴と周囲の状況がわかるようなアングルで撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 杭種・規格・施工数量
- 杭位置・番号を図示する。

### (2) リバウンド量の測定状況



#### 留意事項

- リバウンド量などから動的支持力を推定し、打ち止めを決める。その測定方法がわかりやすく撮影されている。
- 作業員が杭打機側におり、危険に見えるため、作業位置を変えて撮影する。

#### 撮影方法

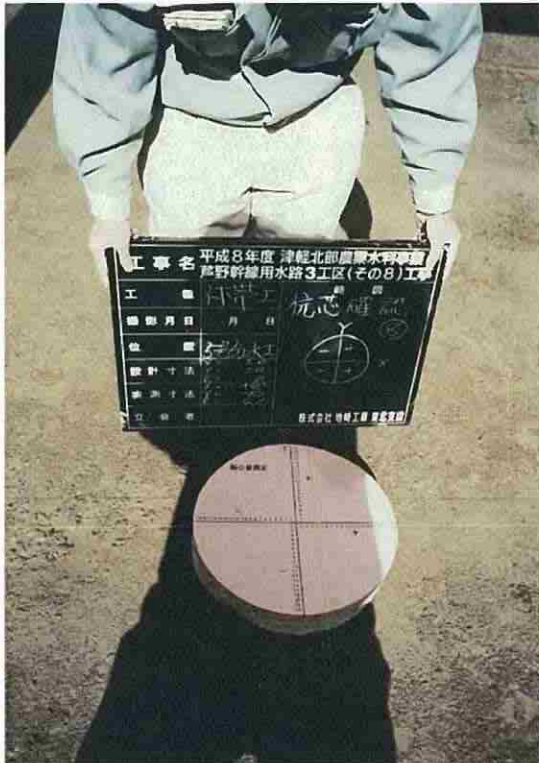
- リバウンド量の測定状況がわかるように撮影する。
- リバウンド量のアップも撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 使用機械
- 杭位置・番号を図示する。

## 1-4 基礎杭打工

### (3) 偏心量の測定状況



#### 撮影方法

- 偏心量の確認ができるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 杭位置・番号を図示する。

#### 留意事項

- 水糸を用いているので、芯からの偏心量がわかりやすい。
- 撮影者の影が入らないように撮影する。
- 水糸が明瞭に写るように工夫する。

### (4) 基準高の測定状況



#### 撮影方法

- 撮影部位が全体のどこに位置するかわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 杭種・規格
- 設計寸法・実測寸法
- 杭位置・番号を図示する。

#### 留意事項

- 打込み後の杭がどこに位置するかわかりにくい。
- 撮影に支障となる余分なものを片付けて撮影する。

## 1-4 基礎杭打工

### (5) 杭打込み完了後



#### 留意事項

- 杭間隔等がわかるように、ポール又は標尺を置く。
- 全体数が確認できるような高アングルで撮影するように工夫する。
- 黒板を入れて撮影する。

#### 撮影方法

- 全体数量が確認できるアングルから撮影する。
- 杭番号をマーキングして、杭の配置がわかるようにする。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 杭種・杭規格・長さ
- 杭位置（ピッチ・本数）を図示する。

## 1-5 矢板打工

### (1) 打込位置の確認状況（鋼矢板）



#### 留意事項

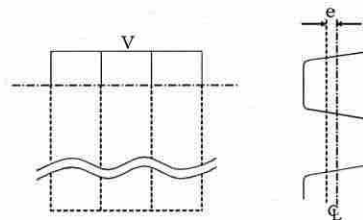
- 水系などの基準線が設置されていない。
  - 水系がわりのピンポールは位置が動きやすく、あいまいである。
- △測定箇所のアップも撮影する。

#### 撮影方法

- 中心線のズレが明確に確認できるように基準線を設置して撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 中心線のズレを図示する。



### (2) 笠コンクリートの出来形確認状況



#### 留意事項

- 背後の連続性がわかりやすい。
- 黒板の記入内容が明確である。
- Hの確認ができるように、標尺の位置を工夫する。

#### 撮影方法

- 出来形寸法が正確に確認できるようなアングルで撮影する。
- 前後の連続性が、わかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

## 1-6 オープンケーソン

### (1) 長さ・厚さの確認状況



#### 留意事項

- リボンロッドが水平に張られているかわかりにくい。
- リボンロッドの正面から撮影し、水平と形状・実測寸法がわかるようにする。

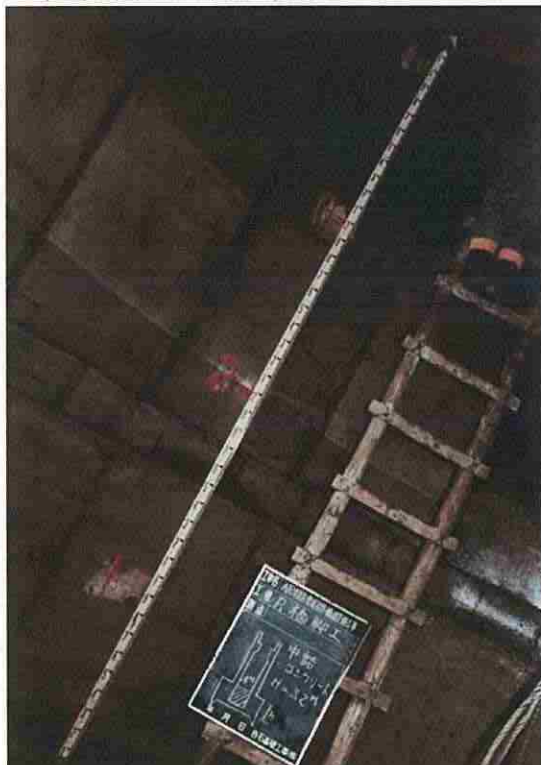
#### 撮影方法

- 測定位置がわかるようにマーキングを行う。
- 撮影部位が全体のどこに位置するかわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入し、測定箇所を表示する。

### (2) 高さの測定状況



#### 撮影方法

- 測定範囲全体がわかるように撮影する。
- 全体が入らない場合は、リボンロッドの横に数値をマーキングし、数枚の撮影を行い全体をわかるようにする。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

#### 留意事項

- リボンロッドの下端が見えないので、どの部分を測定しているかわかりにくい。
- カメラアングルを水平にして、リボンロッドと黒板が垂直になるように撮影する。

## 1-6 オープンケーソン (3) 施工状況 (全景)



### 留意事項

- 高位置からコンクリート打設状況が撮影されており、使用機械の状況がわかりやすい。
- 黒板を入れて撮影する。

### 撮影方法

- 施工状況全体がわかるよう撮影する。
- コンクリート打設工法の特徴がわかるように、使用機械の状況とともに撮影する。

### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名を記入する。

## 1-7 栗石基礎・碎石基礎・砂基礎・均しコンクリート

### (1) 目潰材敷均し状況（碎石基礎）



#### 留意事項

- 使用材料がどのような現場状況で使用されているかわかりやすい。
- 正面から撮影する方が、材料や全体がわかりやすい。

#### 撮影方法

- 敷均し作業とともに、前後の連続性も確認できるアングルで撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 碎石の規格を記入する。

### (2) 転圧状況（碎石基礎）



#### 留意事項

- 前後の連続性がわかりやすい。
- 使用機械を手前に置き規格がわかるようにする。
- 転圧回数がわかるように工夫する。

#### 撮影方法

- 使用機械とともに、施工前・施工後の状況がわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名・規格を記入する。

## 1-7 栗石基礎・碎石基礎・砂基礎・均しコンクリート (3) 幅の測定状況 (砂基礎)



### 留意事項

- 基礎厚さを測定しているものではない。まぎらわしいので目的別で撮影する。
- 黒板がリボンロッドに隠れている。
- 起終点はポールよりピンポールがよい。

### 撮影方法

- 出来形寸法とともに、背後の状況が確認できるように撮影する。
- リボンロッドはたるまないように張力を加えて撮影する。
- 測定範囲がわかるように起終点にピンホールを使用する。

### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

## (4) 幅の測定状況 (均しコンクリート)



### 留意事項

- 起終点にピンポールを使用し、測定範囲が確認できる。
- アングルを少し下げると、スタッフの正面の目盛がさらにわかりやすく、背後の連続性も確認できる。

### 撮影方法

- 出来形寸法とともに、前後の連続性がわかるように撮影する。
- リボンロッド、スタッフの正面から撮影する。

### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。



## 1-8 精度を要するもの・分土工計量部・ゲート戸当部・橋台沓部

### (1) ゲート部 (全景)



#### 撮影方法

- 機能、構造はもちろんのこと、周囲の状況も含めて撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 扉体形式・寸法を記入する。

#### 留意事項

- アングルを下に向け水路との関連を明らかにするか、横向きのアングルで設置状況がわかるように撮影する。
- 説明図として概略図をつける。
- 黒板を入れて撮影する。

### (2) 箱抜き寸法の測定状況



#### 撮影方法

- 幅・長さ・深さの実測値が確認できるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

#### 留意事項

- スケールを適切においているので、幅・長さ・深さが確認できる。
- 寸法・黒板の記入内容が確認できる。
- 箱抜きの底の状況も確認できる。
- 設計寸法を上段、実測寸法を下段（朱書き）に併記するなどし、値が一目瞭然となるよう記載する。

1-8 精度を要するもの・分水工計量部・ゲート戸当部・橋台沓部  
 (3) 出来形寸法の測定状況 (土砂吐工)



留意事項

□底版の高さが、奥に向かって下がっている状況がわかるように撮影されている。

■右側壁の実測寸法の目盛が手に隠れて見えない。

撮影方法

- アングルに配慮し、リボンロッドの正面から撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。
- 前後の連続性がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 出来形寸法の測定状況 (橋脚工)



留意事項

■測定位置が全体のどこに位置するのかわからない。

■全体写真と部分写真・分割写真との組み合わせを工夫する。

■手前のリボンロッドが曲がってたるんでいる。

撮影方法

- 測定範囲の全体が確認できるように撮影する。
- 測定箇所の起終点がわかるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

## 1-9 U字溝・U字フリューム・ベンチフリューム

### (1) 基礎の出来形確認状況



#### 留意事項

- 測定孔が大きく、スタッフの下端が確認できる。
- スタッフやピンポールを目盛にあて、実測寸法が確認できる。

#### 撮影方法

- スタッフの下端と水平面を明確にして、基礎厚の出来形寸法が確認できるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

### (2) U字溝の施工状況



#### 留意事項

- 作業員の据付け状況が見えにくい。
- 左に移動し、クレーンや据付けの全体がわかるような撮影位置やアングルを工夫する。

#### 撮影方法

- 使用機械や使用材料がわかるように撮影する。
- 機械を用いた据付け状況が把握できるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 施工機械・U字溝の規格を記入する。

## 1-10 土水路

### (1) 掘削断面の出来形確認状況



#### 留意事項

- 底幅などの出来形寸法が確認できない。
- 黒板を正面に向け、記入内容が読めるようにする。
- スタッフ・ピンポールを用いて、底幅を含む断面寸法がわかるようにする。

#### 撮影方法

- 出来形寸法とともに前後の連続性が確認できるように撮影する。
- スタッフ、ピンポールなどを用いて断面がわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

## 1-11 鉄筋組立

### (1) 配筋確認状況



#### 留意事項

- 鉄筋の径が区分できるようにマーキングされている。
- マーキング箇所が多いため、撮影枚数を分割して撮影するとわかりやすい。
- 鉄筋の上に乗る場合は、足場板を設置する。

#### 撮影方法

- 鉄筋の径がわかるようにマーキングを行い撮影する。
- 配筋の状況がわかるように撮影する。
- 鉄筋間隔等がわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

### (2) 鉄筋かぶり確認状況



#### 留意事項

- 目盛りがわかるようにアップで撮影されている。
- あて木・ピンポールなどをあて、寸法測定箇所を明確にする。

#### 撮影方法

- 鉄筋かぶりがわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。